



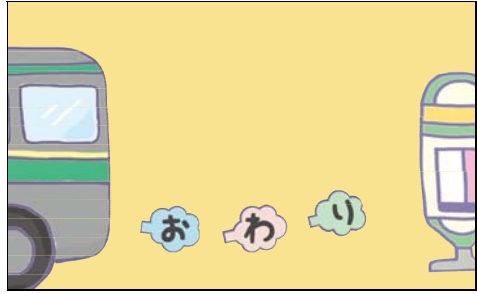
【上級編】

みんなが見ている やさしい気持ち

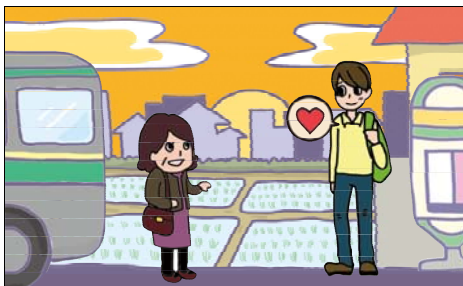
※本文は、●の箇所を読んでください。

※薄い文字は、読みません。

「みんなが見ている やさしい気持ち」



おわり



家の近くのバス停に到着して、康介君はバスを降りました。

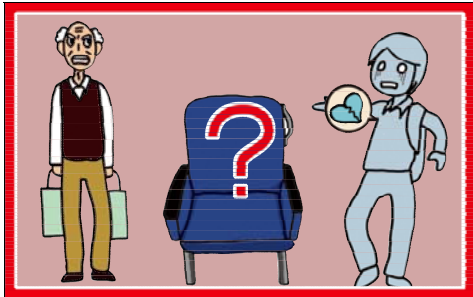
一緒にバスを降りてきたおばさんが、声を掛けてきました。

おばさんは、康介君の後ろの席で、一部始終を見ていたのです。

「あんた偉かったね。見てたよ！

今度、私が立っていたら、席を譲ってね。」

知らないおばさんに褒められて、ほっとした康介君なのです。



【ポイント】

子どもに問いかけて、答えさせるやり取りの中から、断られた人の気持ちや、断った人の気持ちを考えさせます。
また、たとえ断られても、困った人に勇気を出して声を掛けたことは、価値ある行為だと理解させます。



「ガ——ン！」

せっかく勇気を出して席を譲ったのに、康介君はおじいさんに断られてしまいましたね。

さて、ここで考えてみましょう。

質問 1

●断られた康介君は、どんな気持ちかな？

(想定される答え)

- ・ショック！
- ・言わなきゃよかった
- ・頭にきた（むかつく、ひどい）

質問 2

●おじいさんの気持ちは？ 何で断ったのかな？

(想定される答え)

- ・年寄扱いするな！
- ・次で降りるから
- ・申し訳ない（遠慮している。）

質問 3

●じゃ、もし、おじいさんに席を譲らなかったら、

康介君はどういう気持ちになっていたかな？

(想定される答え)

- ・譲れば良かった。（後悔）
- ・誰か譲ってくれるかな。
- ・心に“もやもや”が残る。



●康介君は、せっかく席を譲ったのに、「ショック！」とか「言わなきゃ良かった」とか、残念な気持ちになってしまったみたいだね。

一方、おじいさんにも「年寄扱いされたくない」とか「次で降りるから」とか、断る理由があったみたいだね。

康介君は席を譲らなかったら、「譲ればよかった」とか「誰か譲ってくれるかな」とか、心に“もやもや”が残るかもしれないね。

●今回のお話で「相手に良いと思ってしたことが、断られるときもある」ということが分かったよね。

これから先、みんなも同じ様な場面に出あうかもしれないね。

そんなときは、断られるかもしれないけど、自分が勇気を出して行動した方が後悔しないよね。

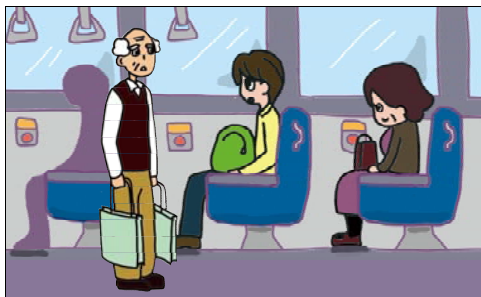
さあ、この後、康介君がどうなったのか、続きを見てみましょう。



康介君は、そのおじいさんに気が付いて、勇気を出して席を立ちました。

「どうぞ！」

すると、おじいさんが、「わしゃ、いい！！」と断りました。



買い物を終えて、バスに乗った康介君。

最初は空いていたので座れましたが、

だんだん混んできて、席がいっぱいになりました。

そこへ、大きな荷物を持ったおじいさんが乗ってきました。



康介君は、勇気を出して声を掛けました。

「踏み台を持ってきて 取りませんか？」

「じゃあ、お願いしようかな。ありがとう」

康介君は、お兄さんの役に立てて 嬉しくなりました。



8階の本屋さんに到着した康介君。

本を探してキョロキョロしていると、
今度は、松葉杖をついた お兄さんがいることに気がつきました。

お兄さんは、高い所にある本を見ながら困っているようでした。



急いで乗ってきたベビーカーのお母さんに、
康介君は 勇気を出して声を掛けました。

「な…何階ですか？」

「あ、3階お願いします。ありがとう。」

康介君は、ベビーカーのお母さんの役に立てて、
ちょっと嬉しくなりました。



駅ビルに着いて、エレベーターに乗った康介君。

- すると、ベビーカーを押したお母さんがこちらに来るのに気がついて、あわてて「開く」のボタンを押しました。



小学校を卒業して、中学生になった康介君。

バスに乗って、駅ビルの中にある 大きな本屋さんに出かけました。

一人でまちへ行くのは、初めてなので とてもドキドキしています。